

方言の教育：ものもらいの方言

著者	塩入 元義
出版者	長野県ことばの会
引用	ことばの研究 1: 19(1980)
発行年月日	1980-09-20
URL	http://hdl.handle.net/10091/00022338

方言の教育

—— ものもらいの方言 ——

篠ノ井東中学教諭 塩 入 元 義

方言の教育では、言うまでもないことながら、その分布をとらえて語の成立の歴史や語源を追求し、一つ一つの方言に対する正しい認識を持つことをねらいとする。つまり、方言の観察・整理・考察において、言語の歴史性への目を養い、その表現価値への新たな関心を啓培することにあると思われるが、従来はそういう学習に適した教材が得られないのが一般であった。とりわけ学習者の地域の方言を全国的な視野で扱った教材が得られなかったが、たまたま、「ものもらいの方言」という中学生向きの教材が得られたので、それによって進めた授業の結果について発表する。

結論を述べれば、「ものもらい」という親近感のある語の全国分布を言語地図によって具体的に知り、それらの方言の発生や伝播、

その歴史性について生徒は非常に興味を持って取りくみ、追求的でありまた創造的な思考が持たれて、方言の学習も国語教育の中にはつきりした位置を占めさせることが可能であることへの推測が立てられた。